

「制度の創設に向け準備中」と部長

大谷市議は、6月議会的一般質問で、高齢者の熱中症対策としてエアコン設置の助成制度について質問。部長は「制度の創設に向け協議している」と答弁。大谷市議は「この夏に間に合うよう急ぐべき」と指摘しました。

日田市の夏場は、高温多湿で、取り分け35度を超える猛暑日の日数は全国でもトップです。熱中症対策として市や国は、水分補給とエアコンの利用を呼びかけています。



大谷市議は、高齢者のエアコン利用の実態を調査することと所得の低い世帯については、補助制度をつくるよう求めました。福祉保健部長は「令和4年6月から8月に聞き取り調査をした。168人中18人が設置しなかった。設置している150人中15人が、エアコンを付けたがらない状況。全国的には未設置が2割と言ったが日田市は1割」と答弁。さらに補助制度の創設については「熱中症予防の観点から創設に向け協議を進めている」と答弁。

現在、対象者や金額、期間、設置の業者などについて協議を進めていると応えましたが、大谷市議は、対象者を狭くせず、今年の夏に利用できるように制度をつくることを要望しました。



市長「今年公約としては考えていない」

大谷市議は2220名の無償化を願う市民の署名を踏まえて、給食費無償化の公約について質問。市長は「国の動向を把握して判断したい」と答弁し、市長選挙の「公約には考えていない」と答弁。また財政的には「現在の状況は余裕のある財調（財政調整基金）の状況」と述べました。

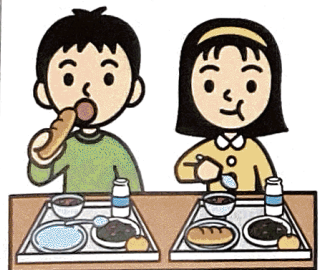
党市議団は3月議会で、無償化（1億8千万円必要）を選挙の公約にするのかと質問していました。市長は「後で発表する」と述べ、教育次長は「恒常的な財源が必要（無償化）使える国の財政的支援」で、今はないので無償化ができない趣旨の答弁でした。

6月議会で大谷市議は「国の支援がなくても、全国で完

政規模の10%（約22億円）が目安だが、日田市は57億円ある。その他基金（約110億円）もあり財政に余裕がある」ことを示して実施を求めました。市長は「今は余裕のある財調の状況」と認めましたが、実施することは述べませんでした。無償化は市長選挙の争点となっており、引き続き市民と運動を広げていきます。

市長「今は財調は余裕がある」

大谷市議は「財調は標準財



学校給食費は無償化に

高齢者宅に エアコン設置の補助制度を